

## 単元名

## いくぞ！がっこう たんけんたい

教科書 上巻 p.2～19

単元の配当時間 10 時間／活動時期 4～5 月

## 単元の目標

学校や通学路を探検する活動を通して、学校の施設とその役割、学校で働いている人々とその仕事を考えるとともに、自分も学校の一員であることが分かり、楽しく安心して学校生活を送ることができるようにする。また、通学路の様子や学校の周りの支えてくれる人々に気づき、安全な登下校ができるようにする。

## 小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて変更して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<b>なにがあるかな？ だれがいるかな？（1時間）</b> 学校のことについて、知っていることや知りたいと思うことを話したり、友達の意見を聞いたりして、学校の中の場所や人に興味・関心を持つことができるようにする。	知・技	学校には、さまざまな部屋があり、たくさんの人がいることに気付いている。	「入学式では体育館を使ったね。」「校長先生と挨拶したよ。」など入学してからの経験をもとに、学校にはさまざまな部屋があり、たくさんの人がいることに気付いている。	●入学式で使用した体育館の写真や、入学式に関わった校長先生の写真を用意し、これまでの学校生活を振り返りやすいようにする。
	思・判・表	学校のことについて、知っていることや知りたいと思っていることを考えたり、話したりしている。	「お兄さんお姉さんがいる教室に行ってみたいな。」「先生が話していたパソコンがある部屋を探したいです。」など、入学してからの生活の中で興味・関心をもったことについて積極的に話している。	●行ってみたい場所を話せない子どもには、教師が入学してから関わった人や、これまでに使った部屋の話をして、活動への期待感を高めるようにする。
	主体	学校内の施設や人々に関心を持ち、みんなと楽しく探検したいという思いや願いをもっている。	「図書室に行ってみたい。」など具体的な思いや願いを持ち、探検を楽しみにしている。	●行ってみたい場所や知りたいことがある子どもを取り上げ、クラス全体で学校探検を楽しむ雰囲気に繋げる。
<b>みんなで がっこうを たんけんしよう（1時間）</b> 先生や上級生と一緒に学校を回り、学校の中の場所や人への興味・関心を高めることができるようにする。	知・技	学校には、さまざまな部屋があり、たくさんの人がいることに気付いている。	「ここは何の部屋かな？」「何のためにあるのかな？」など、探検で見つけた部屋に興味を持ち、それぞれの部屋には目的があると考えている。	●教室に学校の平面図を掲示し、子どもたちのカードや探検の写真を重ねて貼っていき、一緒に見る習慣をつける。
	思・判・表	学校には、みんなで気持ちよく安全に過ごすためのルールやマナーがあり、それを考えて行動している。	静かに見学したり、廊下を右側通行したりなど、学校の決まりを守って探検し、それらが自分たちの安全な学校生活に繋がっていることが分かっている。	●遊んだり、おしゃべりしながら移動したりする子どもには、その場でしばらくほかの子どもたちや上級生の姿を観察させ、その場所の使い方とともにふるまい方に気付かせるようにする。
	主体	学校内の施設や人々に関心を持ち、楽しく探検しようとしている。	学校の中の場所や仕事をしている人を興味深く見て、「もう一度行ってみたいな」「もっとお話をしてみたい。」「今度は〇〇に行きたい。」など、次の活動への意欲がある発言をしている。	●探検の途中に、良く見ている子どもを取り上げて褒めるようにする。 ●次の活動への意欲がある子どもを取り上げ、自分の思いや願いから生活科の授業が広がっていくという実感をもてるようにする。

## 単元の評価規準

## ●知識・技能

学校での生活は様々な人や施設と関わっていることや、通学路の安全を守っている施設や人々の存在が分かっている。

## ●思考・判断・表現

学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えている。

## ●主体的に学習に取り組む態度

学校生活に関わる活動に関心を持ち、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<b>きになるばしょにいてみよう（2時間）</b> 友達と一緒に、自分が気になる場所へ行き、学校で働く人や上級生と関わりながら、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かるようにする。	<b>知・技</b>	学校の中の場所や人、部屋にある物や部屋の目的、場所ごとのマナーに気付いている。	「校長室にあるサッカーボールのことを質問したら、この学校の卒業生がプロになって贈ってくれたものだって教えてくれました。〇〇小学校ってすごいなあ、と思いました。」など、自分から具体的な質問を行い、その部屋や小学校への愛着を深めている。	●継続的にその場に応じたマナーがあることを伝え、できている子どもを取り上げて褒める。
	<b>思・判・表</b>	学校内の場所ごとのルールを守って行動したり、礼儀正しく話したりしながら、部屋にある物やいる人、部屋の目的などを考えたり、調べたりしている。	「1階には保健室や職員室などのみんなのための部屋が集まっていたよ。使いやすいようにするためかな。」など、「部屋の目的」と「立地、先生の仕事、そこにある物」など気付きを繋げて新たな発見を話している。	●部屋の目的や、その場所で行われている仕事の意味に気付けない子どもには教師と一緒にその場所に応じた活動を促し、実感させるようにする。
	<b>主体</b>	学校内の施設や人々に関心をもっていろいろな場所へ行き、楽しく探検しようとしている。	「図書室にもう1回行きました。どんな本があるのかちゃんと見なかったからです。図書室にお母さんみたいな人がいて話しかけたらボランティアって言ってました。図書室の飾りを作っていました。」など、ねらいを持ってお気に入りの場所に行き、進んで部屋の物を見たり、人に話しかけたりしている。	●行きたい場所を決められない子どもがいたら、まずは歩き始めるように促し（できれば教師と一緒に）、興味を持った場所に入ってみよう声をかける。 ●「お気に入り」がなかなか決められない子どもには、日ごろから小さな判断・決定を繰り返させる機会を与え、自分で決められたことを褒める。
<b>がっこうのひととはなしてみよう（1時間）</b> 学校のひとと繰り返し関わることを通して、学校生活を支えてくれている人々のことについて考えることができ、学校生活は様々な人々によって支えられていることが分かるようにする。	<b>知・技</b>	学校には様々な施設があることや、自分たちの学校生活を支えてくれている人々がいることに気付いている。	「けがをした時や具合が悪くなったらおいでってやさしく言ってくれました。保健室の先生がいてくれて安心です。」「図書室に行ったら司書の先生が壊れた本を直してくれていました。みんなの本だから大切にしないといけないと思いました。」など、学校はみんなのものであり、学校で働いている人はみんなのために働いていることが分かり、自分の行動や心情と関係付けることができている。	●学校の施設や学級担任以外の先生の数を数え、様々な施設やたくさんの方が働いていることに気付けるようにする。 ●司書がいない図書室や養護のいない保健室へ行き、それぞれの先生がいない時の不便さを感じさせ、様々な人の支えがあることに気付けるようにする。
	<b>思・判・表</b>	インタビューを通して、学校で働く人が自分とどのように繋がっているかを考えている。	「給食の先生は、みんなの体のことを考えて給食を作ってくれているんだって。だから、苦手なものも頑張って食べようと思います。」「技術員さんは、学校のいろいろなところを使いやすくしたり直したりしてくれているって言ってました。今度会ったらありがとうございますと言います。」など、学校にいる人の役割が分かるとともに、その人と自分がどのように関わっていったら良いか考え行動することができる。	●ここは何をしたらいいのか問いかけることで場に合った行動を促し、探検する時のルールやマナーに繋げる。 ●何をインタビューしたら良いか分からない場合は、聞くことをいくつか提示し、その中から聞いてみたいことを選ばせる。
	<b>主体</b>	学校内の施設や人々に関心を持ち、繰り返し関わろうとしている。	「今度図書室へ行ったら、司書の先生にお勧めの本を紹介してもらおう」「技術員さんはお花を育てるのが好きだって言っていたから、アサガオの育て方も聞いてみたいいな」など学校の施設や先生、友達に関心をよせ、思いや願いを持って積極的に関わろうとしている。	●前時の探検で頑張っていたことを具体的に称賛し、今回の探検への意欲を高める。 ●インタビューしてきてほしい人のリストを作り、「ミッション」として与えるなど、ゲーム的な要素を加えることで、働いている人や施設への関心を少しずつ高めていく。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<p><b>こうていをたんけんしよう（1時間）</b></p> <p>校内の動植物と触れ合ったり、草花や虫を見つけたり、校庭の遊具や施設などを正しく使ったりして、楽しく安全に校庭を使用することができるようにする。</p>	知・技	校庭にある施設の位置や特徴，役割に気付いている。	「校庭では技術員さん（用務員さん）がお掃除していたよ。だからいつも校庭がきれいだと分かりました。」など、「場所の目的やその場所の様子」と「立地，先生の仕事，そこにある物」など気付きを繋げて新たな発見を話している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●校庭にも場所ごとに目的を持った物があることに気付けない子どもにはその場所に応じた活動をさせて体験的に実感させるようにする。</li> <li>●教室掲示の学校平面図の校庭部分にも場所や子どもの写真，カードをはり，折に触れて話題にのせるようにする。</li> </ul>
	思・判・表	動植物に優しく接したり，ルールを守って遊具や施設を利用したりなど，自分なりに考えて行動している。	「ウサギ小屋が好きです。そばを通ってちらっと見たらかわいかったからです。優しくしてねと書いてあったので静かに見ました。」など，お気に入りの理由を明確にし，その場のルールを自分で考えて行動することができている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●動植物を手荒くあつかったり，順番を守れなかったりする子どもには，その場でしばらく他の子どもたちの姿を観察させ，その場所の使い方とともにふるまい方に気付かせるようにする。</li> <li>●継続的にその場のマナーがあることを伝え，できている子どもを取り上げて褒める。</li> </ul>
	主体	校庭の動植物や遊具・施設に関心をもち，興味深く動植物と接したり，校庭で友達と仲良く遊んだりしようとしている。	「校庭を全部回ったよ。うさぎ小屋や花壇，鉄棒があったよ。初めて見る遊ぶものがあったから友達にやり方を聞いて一緒に遊んだら楽しかったよ。」など，多くの選択肢から自分でお気に入りを見つけ，進んでその場でできる活動に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●行きたい場所や校庭でしたいことを決められない子どもには，まずは歩き始めるように促し，興味を持った場所に行ってみよう声をかける。</li> <li>●「お気に入り」がなかなか決められない子どもには，日ごろから小さな判断・決定を繰り返させる機会を与え，自分で決められたことを褒める。</li> </ul>
<p><b>がっこうのまわりをあるいてみよう（1時間）</b></p> <p>通学路にある自然や人々，安全を守るための施設などに気付き，それぞれの地域で楽しく安全に生活することができるようにする。</p>	知・技	通学路にある自然や安全を守るための施設，安全を守っている人の存在などに気付いている。	「朝，隣のおばあさんに挨拶してもらうことが嬉しいです。ぼくも地域の方に挨拶するようにしました。」「田んぼの稲が毎日どんどんのびています。毎日通るのが楽しみです。」など，地域の人々や通学路への愛着を深めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通学路を含めた地域の良さに気付けない子どもには，登下校や放課後などで嬉しかったことや助かったことなどを想起させるようにする。</li> <li>●継続的に子どもの成長を認め，その際にその成長は地域の方々も見守ってくれていることにも繋げながら話すようにする。</li> </ul>
	思・判・表	みんなで歩いて発見したことや，自分の地域のお気に入りの自然や人などについて，話したり聞いたりしている。	カードや写真などを適宜参照しながら，その場所の様子だけでなく，そこにいる人やでき事，ある物，お気に入りの理由などと繋げて話すことができている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通学路のお気に入りと関係のないことを話す子どもには，カードや掲示物，地域の写真などを参照させ，教師が質問しながら話をさせるようにする。</li> <li>●発達段階に応じた話ができるように国語科の話し方・聞き方のカリキュラムと連動させて指導する。</li> </ul>
	主体	通学路の様子やその安全を守っている人々の存在を感じながら，みんなで歩いたり，自分の地域を見直したりしようとしている。	「通学路のわきに花壇がありました。きれいだなあ，と初めて思いました。誰が水をあげているのか知りたくなりました。」など，改めて気付いたことから地域や地域の人々への興味をもつことができている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の地域でお気に入りの場所を見つけられない子どもには，同じ地域の子どもと話をさせたり，保護者からも話を聞いたりする機会を設定する。</li> <li>●「お気に入り」がなかなか決められない子どもには，日ごろから小さな判断・決定を繰り返させる機会を与え，自分で決められたことを褒める。</li> </ul>

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<b>みつけたことをしょうかいしよう（3時間）</b> 見つけた物や気付いたことを教え合うことを通して、学校への愛着や学校生活への自信を深めることができるようにする。	知・技	学校の中の場所や人、部屋にある物や部屋の目的、校庭にある物や自然、場所ごとのマナーについて気付くとともに、安心して学校生活を送ることができるようになった自分に気付いている。	「6年生の部屋に行ったら机が大きかった。ぼくもいつかあんなに大きくなるのかな、と思ってたうれしくなりました。」「図書室には本がいっぱいありました。分からないことができて大丈夫だと思いました。」など、これからの学校生活に楽しみや安心をもつことができ、それを話している。	●学校生活の良さに気付けない子どもには、学校に来てうれしかったことや助かったことなどを想起させるようにする。 ●継続的に子どもの成長を認め、その際に学校生活をしっかり送ることができることにも繋げながら話すようにする。
	思・判・表	見つけた物・こと・人について分かりやすく伝えるために言葉や動作で発表している。	カードや教室掲示の地図、写真などを適宜参照しながら、その場所の目的や様子だけでなく、そこにいる人や出来事、ある物などと繋げて話すことができている。	●楽しかったで終わってしまう子ども、探検以外のことを話そうとする子どもには、カードや掲示物を参照させ、教師が質問しながら話をさせるようにする。 ●発達段階に応じた話ができるように国語科の話し方・聞き方のカリキュラムと連動させて指導する。
	主体	見つけた物・こと・人について先生や友達に意欲的に話したり、友達の話を聞こうとしたりしている。	笑顔ではきはきと楽しかったことを話したり、友達の発表にうなずいたり、積極的に質問したりしながら参加している。	●探検のことを話せない子どもには、その子どものカードを持って教師が代わりに話すことから始め、だんだんと一緒に、そして一人で話せるようにする。

## 単元名

## げんきに そだて わたしのはな

教科書 上巻 p.20 ～ 33

単元の配当時間 10 時間／活動時期 5 ～ 9 月

## 単元の目標

植物を育てる活動を通して、植物が育つ場所や変化の様子に関心を持ち、植物も自分たちと同じように生命をもっていることに気付くとともに、親しみをもって大切にすることができるようにする。

## 小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<b>どのはなを そだてたいかな？（1時間）</b> これまでの経験や友達の話から、自分の育てたい花を決めることができるようにする。	知・技	複数の植物の種を比較して、植物によって種の形や大きさ、色に違いがあることに気付いている。	種の特徴を捉え、植物によって花が違うように種も違うことに気付いている。	●2種類の種を提示して、形や大きさ、色などの違いに気付けるようにする。
	思・判・表	楽しく植物を育てる様子を思い描きながら、自分が育てたい植物を選んだり、決めたりしている。	これまでの経験や友達の話から、まだ育てたことのない花や種の形状から興味をもった花など、自分なりの根拠をもって育てる花を選んでいる。	●友達と相談させたり、教師が「一緒に育てよう」と誘ったりしながら花を決め、意欲がもてるようにする。
	主体	自分が育てたい植物について関心を持ち、思いや願いをもって関わろうとしている。	自分が育てる植物に関心を持ち、早く世話を始めたいと願って、育て方を人に聞いたり、本で調べたりしている。	●花が咲いた時の写真を見せて、子どもの意欲を高めるようにする。
<b>たねをまこう（1時間）</b> 自分が育てたい花が、元気に育つように願いながら、花の種をまくことができるようにする。	知・技	自分が育てる植物の種の特徴に気付いている。	「アサガオの種は丸くないんだね。」「アサガオの種にはヒマワリの種みたいな模様はないんだね。」のように、他の種と比較して特徴を捉えることができている。	●種を触って形を捉えさせたり、大きさや色などの視点を与えたりして、自分の育てる植物の種の特徴に気付けるようにする。
	思・判・表	種の大きさを考えて、まく場所や数を工夫して、種まきをしている。	種から成長して大きくなることを予想しながら、まく数や間隔を考えて種まきをしている。	●種から芽が出てくることを伝え、種が重なっていると芽も重なって出てくるのがイメージできるように助言し、教師と一緒に種をまく。
	主体	自分が育てる植物について、発芽や成長を楽しみにしながら、種まきをしようとしている。	丁寧に種をまくとともに、早く芽が出て花を咲かせてほしいという思いを手紙やプレートにして鉢に添えたり、種に語りかけたりしている。	●「いつ芽が出るのかなあ。」「何色の花が咲くか楽しみだね。」と話しかけながら教師と一緒に種まきをし、明日からの世話に繋げる。

## 単元の評価規準

## ●知識・技能

栽培活動を行う中で、植物が変化し成長していることに気付くとともに、生命をもっていることやその大きさに気付いている。

## ●思考・判断・表現

栽培活動を行う中で、それらが育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけるとともに、よりよい成長を願って世話の仕方を工夫したりし、それを素直に表現している。

## ●主体的に学習に取り組む態度

植物に心を寄せ、愛着をもって接するとともに、生命あるものとして継続的に世話をしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<b>せわをしよう（1時間）</b> 自分が育てている植物について成長の様子や変化に関心を持ち、成長に応じた観察や世話をすることができるようにする。	知・技	育てている植物の成長する様子や変化に気付き、成長に合った世話の仕方があることに気付いている。	毎日水やりをし、葉の茂る様子から間引きの必要性に気付いたり、伸びてきた蔓のために支柱を用意して立てたり、成長に合った世話ができています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●友達の世話の仕方と自分の世話の仕方とを比べられるようにし、どんな世話が必要かが分かるようにする。</li> <li>●前時にかいた観察カードや記録写真と本時の植物の様子を比べ、どこが変わったのかを捉えられるようにする。</li> </ul>
	思・判・表	植物の変化や成長の様子を意識しながら、世話の仕方を工夫したり、観察したりしている。	日当たりの良い所を見つけて鉢を移動させたり、伸びてきた蔓のために支柱を立てるなど、成長に合った世話を工夫している。また、世話をしながら気付いたことを観察カードにかいたり、報告したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●友達の世話の仕方と自分の世話の仕方とを比べられるようにし、どんな世話が必要かを考えられるようにする。</li> <li>●成長に伴う変化について、話をしながら引き出し、教師が観察カードに書き添える。</li> </ul>
	主体	自分が育てている植物が、元気に大きく成長してほしいという思いや願いをもって、継続的に世話をしようとしている。	毎日、苗に話しかけながら水やりをしたり、葉の色の変化や害虫にも注意を払ったりしながら世話を続けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●できた世話や頑張ったことを称賛し、栽培活動への意欲を高める。</li> <li>●「アサガオが、毎朝〇〇さんが登校してくるのを待っているよ。」と声掛けをし、水やりのきっかけをつくる。また、毎朝通る通路に鉢を置き、毎日目に見える環境をつくる。</li> </ul>
<b>じっくりみよう（2時間）</b> 自分が育てている植物を観察し、成長にともなう変化に気付き、気付いたことを表現したり成長の仕方について考えたりできるようにする。	知・技	育てている植物の葉や花、育ち方の特徴に気付いている。	アサガオの花は、朝開いて昼にはしぼんでしまうことや同じ花は次の日には咲かないことなど、時間を追って観察しなければ分からないことにも気付くことができています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前時にかいた観察カードや記録写真と本時の植物の様子を比べ、どこが変わったのかを捉えられるようにする。</li> <li>●葉、蔓、花など観察の視点を与えて、その特徴を細かく見ることができるよう促す。</li> </ul>
	思・判・表	育てている植物の変化や成長の様子を調べたり、変化の様子を想像したりしながら、関わっている。	葉を触るとざらざらしていることと葉に細かい毛が生えていることを関係付けて考えたり、花の咲く順番を観察から考えたりし、気付いたことを進んで伝え合ったり、絵や文章で表現したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●友達の世話の仕方と自分の世話の仕方とを比べられるようにし、どんな世話が必要かを考えられるようにする。</li> <li>●成長に伴う変化について、話をしながら引き出し、教師が観察カードにかき添える。</li> </ul>
	主体	自分が育てている植物について成長する様子や変化に関心を持ち、じっくり観察しようとしている。	毎日、アサガオに話しかけたり、天候によって水やりを加減したりし、育てている植物の変化の様子に関心を持ちながら世話を続けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●できた世話や頑張ったことを称賛し、栽培活動への意欲を高める。</li> <li>●友達や教師と一緒に観察し、気付いたことを共有し、関心を高める。</li> </ul>

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<p><b>たねを とろう（1時間）</b></p> <p>種のできる様子に関心をもって観察し、植物にも命があることに気付くことができる。</p>	知・技	実の中にある種の形や大きさがまいた種と同じであることに気づき、植物にも命があることに気付いている。	実の中にある種がまいた種と同じであることが分かり、他の植物も同じかどうか確かめている。また、こぼれ種から芽が出ているのを見て、命の繋がりに気付いている。	●採れた種と保管しておいた種を比べ、まいた種と同じ種ができていることを捉えられるようにする。
	思・判・表	熟している種と熟していない種を比べたり、特徴を確かめたりしながら、種採りをしている。	緑色の実と茶色の実の中身を比べ種のでき方を考えたり、花から実ができるまでの流れを見つけたりし、気付いたことを進んで伝え合ったり絵や文章で表現している。	●緑色の実と茶色の実の中身を比べ、どちらに種ができていたかを捉えられるようにする。 ●蔓を上から下へたどりながら、花からどのように実へ変化するのかを捉えられるようにする。
	主体	種のできる様子に関心を持ち、たくさん採りたいという思いや願いをもって種採りを継続的にしようとしている。	天候に合わせて水やりを加減しながら世話を続け、種が採れた時には感謝の気持ちをもったり命の繋がりを感している。	●できた世話や頑張ったことを称賛し、栽培活動への意欲を高める。 ●毎朝通る通路に鉢を置き、毎日目にできる環境をつくる。
<p><b>みつけたひみつをつたえよう（4時間）</b></p> <p>栽培活動を振り返り、作品に表したり、友達と交流したりすることを通して、植物が生命をもっていることが分かり、命を大切にしながら世話をすることができるようになった自分の成長にも気付くことができる。</p>	知・技	植物への親しみが増し、上手に世話ができるようになった自分自身の成長に気付いている。	観察カードを整理しながら植物も自分と同じように成長し、命のあることが分かり、最後まで大切に世話を続けている。	●記録写真を見たり、友達に頑張っていたことを伝えてもらったりして、できるようになったことや頑張ったことに気付けるようにする。
	思・判・表	育ててきた植物と自分との関わりを振り返り、感じたことや考えたこと、分かったことなどを自分なりの方法で表現している。	植物を大切に育ててきた自分や活動を振り返り、そのことが分かるように整理したカードの表紙を工夫したり、考えたことや分かったことなどをクイズやポスターなど工夫して楽しみながら伝え合っている。	●観察カードや記録写真などで栽培活動を振り返り、分かったことや考えたことなどを自分ができる方法で表現してよいことを伝える。
	主体	自分が育てた植物の成長の様子を振り返り、友達や先生、家の人などに伝えようとしている。	自分が大切に育ててきた植物の特徴や頑張った自分について友達や教師、家の人に伝えるとともに、離れたところにいる人にも電話や手紙で伝えようとし、次の栽培活動への意欲も感じられる。	●友達や家の人に頑張っていたことを伝えてもらい、自信に繋げ、次の活動への意欲を高める。

## 単元名

## あそびばに かけよう

教科書 上巻 p.34～43

単元の配当時間 5 時間／活動時期 6 月

## 単元の目標

遊び場で遊ぶ活動を通して、みんなで遊ぶ楽しさや遊びを創り出す面白さに気付くとともに、遊び場はみんなで使う場所であることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用できるようにする。

## 小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて変更して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<b>なにがあるかな？（1時間）</b> 身近な遊び場やそこでした遊びを紹介し合いながら、遊び場に行く意欲をもつことができるようにする。	知・技	遊び場を利用して、友達と仲良く遊ぶことで、遊びがより楽しくなることに気付いている。	「みんなで遊んだほうが面白いよ。」「幼稚園の子がいたら遊んであげよう。」など、遊び場で友達と一緒に仲良く遊ぶことで、自分の遊びが広がったり、遊びがより楽しくなったりすることに気付いている。	●友達と仲良く遊ぶことに目が向くように、学校での遊びの経験を引き出すようにする。
	思・判・表	遊び場に行った経験やそこで遊んだことを振り返り、友達に紹介している。	「ぼくも公園に行ったことがあるよ。あそこならみんなで一緒に遊べるよ。」など、友達の発言を自分が行ったことのある遊び場と同じかどうか、どんな遊びをすれば楽しいかを考えながら聞いている。	●友達の意見に自分が知っていることをつけ足したり、友達の意見の中から自分と同じものを見つけたりするよう助言する。
	主体	身の回りの遊び場に関心を持ち、みんなで楽しく遊ぶことに見通しをもって取り組もうとしている。	「みんなでブランコで遊びたいな。」「虫を探そうよ。」など遊びを提案したり、友達を誘ったりして、みんなで遊ぶことに見通しをもって、遊び場へ出かけることを楽しみにしている。	●教師が身近な遊び場の写真を見せたり、教科書（p.36～37）のイラストを参考にしたりしながら、どんな遊びをしたいかを問うようにする。

## 単元の評価規準

## ●知識・技能

自然や遊具を利用して、みんなで遊ぶ楽しさに気付くとともに、遊び場はみんなで使う場所であること、それを支えている人々がいること、みんなで使うためのルールやマナーがあることに気付いている。

## ●思考・判断・表現

自然や遊具を利用して、遊びを試したり、工夫したり、遊び場の良さや特徴を感じたり考えたりして、それを自分なりに表現している。

## ●主体的に学習に取り組む態度

身近な自然や遊具に関心を持ち、遊びを通して友達と進んで関わろうとしたり、遊び場を安全に気を付けて正しく利用したりして、自分たちの生活を豊かにしようとしている。



小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<p><b>みんなで あそぼう（1時間）</b> <b>あそびをつくろう（2時間）</b></p> <p>友達と遊びを工夫しながら、人や自然と楽しく触れ合い、その楽しさや不思議さに気付くとともに、遊び場のルールやマナーを守り、安全に気をつけて正しく利用することができるようにする。</p>	知 ・ 技	<ul style="list-style-type: none"> <li>春から夏の生き物や自然の不思議さに気付いている。</li> <li>遊び場には、みんなで使うためのルールやマナーがあることに気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「虫が多くなったよ。」「つばめが飛んでいったよ。」など春から夏の生き物が増えたことや種類が多くなったこと、それが不思議だということに気付いている。</li> <li>遊び場にある案内看板や危険注意看板の存在に気付き、遊び場はみんなで使う場所であることや、みんなで使う場所だからこそルールがあることが分かっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教師が見つけた生き物や自然の不思議さを教えたり、紹介したりする。</li> <li>●遊び場にある案内看板や危険注意看板などの存在に気付くように、「この看板は何かな？」など声掛けをする。</li> </ul>
	思 ・ 判 ・ 表	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境を生かし、工夫して遊んでいる。</li> <li>みんなで仲良く安全に遊ぶために遊び方や約束を考えて遊んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>春から夏にかけての草花の種類や虫の名前などを、図鑑を活用して調べたり、細かいところまで注目して観察したり、気付いたりしている。</li> <li>「プランコは並んで順番に使おう。」など、仲良く遊ぶためのルールを自分なりに考え、それを友達に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●春から夏にかけての草花や虫に興味をもっている友達の様子に注目させ、教師と一緒に草花や虫を探すようにする。</li> <li>●草花遊びの面白さに目が向くように、友達と見せ合ったり、教師と一緒に作ったりする。</li> </ul>
	主 体	みんなと楽しく遊びたいという願いをもち、自然に親しんだり、活動したりしようとしている。	「一緒に遊ぼう。」と声を掛けて友達を誘ったり、草花や虫などに関心をもちながら活動したりしようとしている。	●そばで教師が語り掛けたり、楽しい様子を見せたりしながら、1人ひとりの子どものしたいことが見つかるように促す。
<p><b>たのしかったことを</b> <b>つたえよう（1時間）</b></p> <p>遊び場で見つけたものや遊んだことを自分なりの方法で表現し、相手に伝えることができるようにする。</p>	知 ・ 技	遊び場にはルールやマナーがあり、それらを守ったり、友達と仲良く遊んだりすることで、遊びがより楽しくなることに気付いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しかったことだけでなく、遊び場のルールやマナーを守ることの大切さに気付いている。</li> <li>自分が仲良く遊べたことだけでなく、友達やグループの遊び方にも気付いている。</li> </ul>	●友達の発表を参考にして楽しかったことを思い出すようにし、楽しかった理由についても気付くように助言する。
	思 ・ 判 ・ 表	遊び場で遊んだことや、遊びを通して気付いたことを自分なりの方法で表現している。	楽しかったことや気付いたことを絵や文章で示したり、実物を見せたりして、友達や先生に分かりやすく伝えようとしている。	●どんなことに気をつけていたか思い出せるように、遊んでいた時の様子を写した写真などや公園の掲示板などの写真を見せる。
	主 体	気付いたことを友達や先生に分かりやすく伝えようとしたり、友達の発表を積極的に聞こうとしたりしている。	楽しかったことや自分が見つけたことについて積極的に発表するだけでなく、友達の発表も真剣に聞き、質問をしている。	●意欲的に発表できるように、記録カードを見たり、同じ遊びをしていた友達と一緒に発表したりするように促す。

## 単元名

## なつと なかよし

教科書 上巻 p.44～57

単元の配当時間 6時間／活動時期 6～7月

## 単元の目標

身近な自然を観察したり、夏の遊びを楽しんだりする活動を通して、春から夏への変化や夏の特徴、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、みんなと仲よく遊んだり、自分たちの生活を楽しくしたりすることができるようにする。

## 小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<b>なつは どんな きせつかな？（1時間）</b> 自分の知っている夏の季節の食べ物や植物、生き物、行事などについて友達と伝え合う活動を通して、興味・関心を高め、進んで夏を楽しもうとすることができるようにする。	知・技	夏の季節の特徴に気付くとともに、多様な夏の楽しみ方があることに気付いている。	自分なりに夏の楽しみ方や季節の特徴に気付くとともに、友達の考えを聞いて夏の楽しみ方にはいろいろなものがあり、人によって違うことを理解している。	●たくさん夏をイメージしたものを出させる。その過程において、自分なりの楽しみ方や生活の中で使っているものなどについても考えられるようにする。
	思・判・表	今までの体験を生かしながら、関心をもって夏の季節について考え、友達に伝えている。	「保育園でも夏になるといつも泥団子を作っていたよ。」や「幼稚園でアサガオの花を使って色水作りをしたよ。」など自分の経験や知識に基づいて夏の季節について考え、それを友達に進んで伝えている。	●自分の今までの体験を振り返るような言葉掛けを行う。また、友達の体験や紹介してくれた夏の季節特有のものや事柄について自分の体験と比較して、自分もしたことがある、テレビで見たことがあるなど自由に話せるようにする。
	主体	夏の季節に興味・関心を持ち、自分の体験について進んで話そうとしている。	教科書（p.46～47）の写真を見ながら「くじらのように大きな雲だね。」や「こんな雲を見たことがあるよ。」というように、自分の感じたことや経験したことを、写真の様子と結び付けて話している。	●ペアで話す時間を設けたり、写真を見ながら発表するなど、考えを手助けする活動を入れる。
<b>なつの こうていに でてみよう（1時間）</b> 諸感覚を使って、夏の校庭を探検する活動を通して、植物の変化の様子や春とは違った生き物の存在に気付くことができるようにする。	知・技	夏の植物や生き物、校庭の変化の様子に気付いている。	「鉄棒を触ると熱くてやけどをしそうだよ。」や「桜の花が枯れてしまったけど、緑の葉っぱがたくさん増えたね。」など春の校庭との違いについて気付いている。	●春の校庭の様子を振り返ることができるように、写真や自分がかいた記録カードなどをもう一度見直し、どこが変化したのかを考えられるようにする。
	思・判・表	諸感覚を使って、夏の植物や生き物を観察したり、夏の特徴を見つけたりしている。	見つけた夏の植物や生き物の名前を調べたり、春の様子と比べて夏の特徴を見つけたりしている。	●子どもの興味・関心を見ながら、観察の視点を例示して、それを参考にしながら考えられるようにする。
	主体	夏の校庭で見つけた春から夏への変化に応じながら、それらと関わろうとしている。	夏の校庭で見つけた変化について、分かりやすく友達に伝えたり、丁寧に絵に描いてそれを見せたりしながら、春と変わった所について積極的に紹介している。	●校庭にどんなものがあって、春と何が違うのかを教師が聞きながら子どもの言葉を引き出すようにする。

## 単元の評価規準

## ●知識・技能

春の自然の様子との違いや、夏の特徴に気付くとともに、季節によって生活の様子が変わることやその面白さ、自然の不思議さに気付いている。

## ●思考・判断・表現

身近な自然や自分の生活、地域の行事から夏の特徴を見つけ、夏の楽しさや遊びの工夫について自分なりに考えたり、振り返ったりして、それを素直に表現している。

## ●主体的に学習に取り組む態度

季節の変化に関心を持ち、それらを取り入れて遊びを工夫したり、自分の生活を楽しくしようとしたりしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<b>なつと あそぼう（3時間）</b> 夏に適した遊びや、土や砂、水などを使った遊びを考えたり、工夫したりして、友達と楽しく遊ぶことができるようにする。	知・技	土、砂、水などを使って楽しく遊べることや、それらの性質の不思議さなどに気付いている。	「団子にするなら、泥の方が作りやすい。」や「砂場で水を流すと、地面にしみこんでしまう。」などそれぞれの特性を理解し、それに合った遊びを工夫して行っている。	●友達と比べて何が違うのか、もっとこうすれば良くなるということについて、常に意識しながら活動を行わせ、上手くできない時には教師も一緒になって解決の糸口を探していく。
	思・判・表	予想したり、確かめたり、見立てたりしながら、自分なりの遊び方を工夫している。	自然の不思議さや面白さに気付き、砂と土の違いを意識して遊び方を変えたり、シャボン玉が上手に飛ぶ向きや穴の大きさなどを考えたりしながら工夫して遊んでいる。	●教師も一緒になって、土や砂、シャボン玉などを使って工夫して遊べるようにする。
	主体	みんなで楽しく遊びたいという願いをもち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。	自分だけが楽しむのではなく、気付いたことや上手にできるような工夫を友達に教えてあげたりしながら、夏の季節を生かした遊びに進んで取り組んでいる。	●1人遊びをしている子どもには、同じような遊びをしている友達に声を掛け、一緒に活動できるような場を作る。
<b>みつけた なつをつたえよう（1時間）</b> 夏の季節の不思議さや面白さ、工夫して遊んだことを自分なりの方法で表現し、相手に伝えることができるようにする。	知・技	夏の季節の不思議さや面白さに気付き、伝える活動を通して、その良さや季節と自分の生活の関わりに気付いている。	夏の季節の不思議さや面白さについて自分の体験をもとに伝えたり、友達の発表を聞く活動を通して自分では気付かなかったことにも気付いたりして、その良さについて感じている。	●発表した内容を黒板で仲間分けすることによって自然の不思議さや面白さについて気付かせるようにする。
	思・判・表	伝えたいことが相手に伝わるかどうかを考えながら、伝える内容や伝える方法を考えて発表している。	誰に何を伝えたいのかを考え、そのために必要な方法（例えば身体表現や絵、劇化）などを自分で選んでいる。	●相手に伝えるためにはどの方法で発表するのが一番良いかを一緒に考えながら、発表方法を選び、練習を行う。
	主体	夏の季節の不思議さや面白さ、工夫して遊んだことを進んで伝えようとしている。	自分が遊んでみて楽しかったことや気付いたことについて、進んで発表している。また、分からない友達には優しく説明している。	●発表が苦手な子どもには、言葉だけではなく写真や絵などを使って自分の思いが相手に伝わるように支援を行う。

## 単元名

## 生きもの大すき

教科書 上巻 p.58～71

単元の配当時間 7時間／活動時期 9～10月

生き物と触れ合ったり世話をしたりする活動を通して、生き物の育つ場所、変化や成長の様子について興味・関心をもって働きかけ、それらの成長や命の尊さに気付くとともに、生き物を愛着をもって大切にすることができるようにする。

## 小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<b>生きものに あいに いこう</b> <b>（2時間）</b> 学校探検での生き物との出会いや、これまでの飼育経験を生かして生き物を探し、生き物と関わりたいという思いをもつことができるようにする。	知・技	校庭の草むらや石の下、飼育小屋などに、生き物がいることに気付いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物の住みかや食べ物などを知っており、どこを探せばいるかが分かる。</li> <li>・校内にいる生き物は、どの学年が飼育しているのか、誰が世話をしているのかが分かり、関わっているのかわっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●友達と一緒に探しに行ったり、教師と一緒に生き物がいるような場所を探したりしながら、生き物のいる場所に気付くようにする。</li> </ul>
	思・判・表	学校探検やこれまでの生活を振り返り、生き物がすんでいそうな場所を考えて、生き物に会いに行っている。	学校探検で出会った生き物や草むらの生き物がどこにいるか分かり、どこに行ったりどこを探したりすれば良いかを友達に教えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校探検の時の写真や資料を見直しながら、校内のどこにどんな生き物がいたか思い出せるようにする。</li> <li>●友達の話の聞いたり、知っている生き物について見つけた場所を引き出したりして、探しに行くときの手がかりとする。</li> </ul>
	主体	身近な生き物に関心を持ち、その生き物に関わろうとしている。	校庭に生き物を見つけに行くときの持ち物（虫かごや虫取り網）や校内の生き物に会いに行くときに持っていきたい物（餌など）などを考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●友達や教師と一緒に生き物を見つけに行き、見つけた生き物を捕まえたり写真を撮らせたりして関心を高める。</li> <li>●見つけた生き物を紹介する場を設ける。</li> </ul>
<b>生きものと ふれあおう</b> <b>（3時間）</b> 身近な生き物に関心を持ち、生き物の気持ちを考えて触れ合ったり、観察したりすることができるようにする。	知・技	それぞれの生き物に合った世話の仕方があることに気付いている。	詳しい人に聞いたり本で調べたりして、生き物の世話として食べ物を与えたり糞の始末をしたりすることや小屋を掃除したりすることが必要だとが分かり、世話をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●はじめは友達と一緒に生き物の世話をし、慣れたら自分の飼育箱で世話をするようにする。</li> <li>●教室に生き物に関する図書を設置し、いつでも手にとって調べられるようにしておくとともに、分からないことは本で調べて試させ、気付きへ繋げる。</li> </ul>
	思・判・表	生き物との関わり方を調べたり、自分なりに考えたりしながら、観察したり世話したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳しい人に聞いたり本で調べたりして生き物への食べ物の与え方や掃除の仕方など、分かったことを生かして世話をしている。</li> <li>・諸感覚を使ったり、他の生き物と比較したりして気付いたことを記録カードにかいたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教師と一緒に餌やりを繰り返し、生き物への関心を高め、少しずつ自分から関わられるようにする。</li> <li>●記録することが難しい場合には、絵の代わりに写真を貼ったり教師が引き出した気付きを代筆したりする。</li> </ul>
	主体	生き物に関心を持ち、繰り返し生き物に触れたり、世話をしようとしたり、遊んだりしようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間や昼休みなど、毎日世話をしている。</li> <li>・生き物を傷つけないように気を付けて触ったり抱いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教師や友達と一緒に触れ合う機会を設定する。</li> <li>●子どもたちが関わっている様子を写真で記録して掲示し、興味・関心を高める。</li> <li>●飼育委員会の上級生と一緒に世話ができるようにする。</li> </ul>

## 単元の評価規準

## ●知識・技能

生き物に変化し成長していることに気付くとともに、生き物の命を大切にしながら世話ができるようになった自分自身の成長に気付いている。

## ●思考・判断・表現

生き物の育つ場所、変化や成長の様子について興味・関心をもって働きかけるとともに、生き物の世話の仕方や接し方について考えたり工夫したり、振り返ったりし、それを素直に表現している。

## ●主体的に学習に取り組む態度

生き物に心を寄せ、愛着をもって接するとともに、生命あるものとして世話をしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<p><b>見つけたことをしょうかいしよう（2時間）</b></p> <p>生き物との触れ合いや関わり合いを振り返り、生き物の様子を伝え合うを通して、どの生き物も自分と同じように生きていることに気付くことができるようにする。</p>	知・技	仲良くなった生き物も、自分と同じように命をもっていることに気付き、生き物への親しみが増し、上手に世話ができるようになった自分に気付いている。	生き物の命を大切に世話をした自分の頑張りに自信を持つとともに、友達の頑張りにも気付いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●抱いたときの温かさや食べる様子、排泄をすることなどを記録カードや日々の様子から取り上げ、自分と同じように生きていることに気付けるようにする。</li> <li>●できるようになったことを教師や友達から賞賛してもらう場を設け、自信に繋げる。</li> </ul>
	思・判・表	仲良くなった生き物の様子や世話の仕方について自分なりの方法で伝え合っている。	伝える相手のことを考えて伝えることを選んだり、伝える内容を考えて表現方法を選んだりして仲良くなった生き物の様子や世話の仕方を伝え合っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●表現方法についていくつか例示し、自分に合った方法や、やってみたい方法を選べるようにする。</li> <li>●思うように表現できない時には、教師が聞き取ったり問い返しをしたりしてその子の思いを引き出す。</li> </ul>
	主体	生き物と関わり、抱いたり触ったりして思ったことや、生き物と一緒に遊んで分かったことを、友達や家族に知らせようとしている。	生き物と関わって感じたことや考えたことを、学習の場面以外でも自分の身近な人に積極的に伝えようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●友達と一緒に取り組ませ、不安感を和らげる。</li> <li>●生き物と関わったときの様子を聞き取り、思いや考えに共感することで伝えたい気持ちを高める。</li> </ul>

## 単元名

## あきと なかよし

教科書 上巻 p.72～85

単元の配当時間 15時間／活動時期 10～11 月

## 単元の目標

秋の校庭や遊び場などで散歩したり遊んだりする活動を通して、季節が秋に変化したことに気付くとともに、木の葉や木の実などの自然物を使ってみんなで工夫して生活に役立つものを作ったり、遊びに使うものを作ったりして、楽しむことができるようにする。

## 小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<b>あきはどんなきせつかな？</b> <b>（1時間）</b> 普段の生活で気付いた秋について友達と伝え合う活動を通して、身近な秋に関心をもち、秋探しに行く計画を立てることができるようにする。	知・技	夏から秋へ自然の様子が変化していることに気付いている。	夏から秋へ自然の様子が変化している様子に気づくとともに、自分たちの服装や遊びが変わっているなど生活が変わってきていることに気付いている。	●春や夏の様子を振り返ったり、以前にかいた発見カードなどを参考にしたりして思い出させる。また、「前は〇〇して遊んだね。」など、振り返りの視点をはっきりとさせる。
	思・判・表	身の回りで感じられる季節の様子や変化について考えたり、予想したりして、それらを探す計画を立てている。	「校庭の葉っぱは、色が変わっていると思う。」「数も減っているかな？」など予想したり、「生き物を見つけたいから虫かごを持って行こう。」など持ち物を考えたりして、見通しを持って秋探しの計画を立てている。	●春や夏の校庭探検では、何を持って行ったかを思い出させるようにする。 ●「〇〇したい」という思いを持っている子どもの意見を参考にさせ、秋の校庭で何を見たいのか、そのためには何が必要かを考えさせるようにする。
	主体	身の回りに感じられる季節の様子や変化に関心をもち、それらを見つけようとしている。	落ち葉や木の実などの自然物の変化や生き物の様子、旬の食べ物など、秋の特徴について多面的に考えようとしている。	●事前に教師が集めておいた落ち葉や木の実を見せることで、季節の変化への関心を高める。
<b>あきの校ていに出てみよう</b> <b>（2時間）</b> 春や夏の様子と比べながら、季節の変化を遊びや秋探しの中から、諸感覚を使って感じ取ることができるようにする。	知・技	校庭の植物や生き物の様子が変化していることから、季節が変わったことや自然の不思議さや面白さに気付いている。	夏から秋にかけて、葉の色が変わったことや見つかる生き物の種類が変わったことから季節が変わったことや自然や生き物の不思議さや面白さに気付くとともに、それらを生かして遊ぶ面白さに気付いている。	●「葉っぱの様子はどう変わったかな？」「春や夏の生き物はどこにいったのかな？」など以前の様子を思い出せるように声掛けをし、自然の変化の不思議さや面白さが分かるようにする。
	思・判・表	諸感覚を使って校庭の自然を観察したり、関わったりすることを通して、季節の変化を感じ、それらを利用した遊びを考えている。	諸感覚を使って校庭の自然を観察したり、関わったりしながら、秋の特徴を生かした遊びを考えている。	●「どんな色の葉っぱを見つけたの？」「どんなにおいがするかな？」など声掛けを行うようにし、観察の視点をはっきりさせる。
	主体	秋の植物や生き物に関心をもち、校庭の様子の変化を探そうとしている。	春や夏の様子と比べながら、進んで秋の草木や生き物を観察したり、関わったりして、秋の特徴を探そうとしている。	●秋に注目して校庭を散策できない子どもには、「秋にはどんな生き物がいるかな？」「夏の葉っぱはどうだったかな？」と具体的な視点を与えて、秋探しに興味を持てるように声掛けをする。

## 単元の評価規準

## ●知識・技能

春や夏の自然との様子の違いや、秋の特徴に気付くとともに、季節によって生活の様子が変わることやその面白さ、自然の不思議さに気付いている。

## ●思考・判断・表現

身近な自然や自分の生活、地域の行事から秋の特徴を見つけ、それらを表現したり、身近な秋の自然を利用して工夫して遊びや遊びに使うものを作ったりしている。

## ●主体的に学習に取り組む態度

季節の変化に関心をもち、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとしていたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<p><b>もっと あきをさがしに いこう（2時間）</b></p> <p>春や夏と比べながら，公園や野原などの遊び場の変化を，諸感覚を使って感じ取るとともに，見つけた秋の自然物や生き物に興味・関心をもつことができるようにする。</p>	知・技	<p>・公園や野原など遊び場のルールやマナーを守ることの大切さに気付いている。</p> <p>・秋探しを通して，植物や生き物の様子の変化していることや，人々の生活が変わっていることに気付いている。</p>	<p>草木や生き物の様子の変化していることや，人々の生活が変わっていることに気付くとともに，友達の発表や話から新たな気付きを生み出している。</p>	<p>●決まりについては，具体的な例を挙げて，なぜ守るのかを考えさせたり，良い行動を褒めたりすることで気付かせる。</p> <p>●他の子どもの発見や遊びを紹介し，共有させる中で，発見の視点に気付かせる。</p>
	思・判・表	<p>公園や野原など身近な自然を観察したり，関わったりすることを通して，季節による変化や特徴を見つけ，それらを利用した遊びを考え，みんなで楽しく遊んでいる。</p>	<p>春や夏と秋の様子を比較したり，校庭と遊び場の秋の様子を比較したりしながら，季節による変化や特徴を見つけ，それらを利用した遊びを工夫して考え，みんなで楽しく遊んでいる。</p>	<p>●「葉っぱを踏むとどんな音がするかな？」「木の実を使って，どんな遊びができるかな？」と声掛けをして，季節の特徴や遊びへの関心を高める。</p>
	主体	<p>秋の植物や生き物に関心を持ち，公園，野原の様子の変化を探そうとしている。</p>	<p>春や夏の様子と比べながら，進んで秋の草木や生き物を観察したり，関わったりして，秋の特徴を探そうとしている。</p>	<p>●秋に注目して校庭を散策できない子どもには，「秋にはどんな生き物がいるかな？」「夏の葉っぱはどうだったかな？」と具体的な視点を与えて，秋探しに興味を持てるように声掛けをする。</p>
<p><b>見つけた あきをじっくり見よう（1時間）</b></p> <p>校庭や公園など身近な自然で見つけた秋をじっくり観察したり比べたりする活動を通して，見つけたことを友達と伝え合い，季節の違いやその特徴に気付くことができるようにする。</p>	知・技	<p>友達と伝え合うことを通して，秋らしさや自然の変化に気付いている。</p>	<p>見つけた落ち葉や木の実の特徴を図鑑などで調べたり，友達との交流を通して，更に気付きを深めている。</p>	<p>●秋の変化が見つからない子どもには，衣食住の視点を持たせたり，保護者へのインタビューなどを設定したりして，家庭生活にも目を向けさせる。</p>
	思・判・表	<p>木の実や落ち葉などをじっくり観察したり，比べたりして，秋の特徴を捉えたり，秋らしさを考えたりしている。</p>	<p>発見した秋や感じたことを絵や文章などで工夫して表現したり，相手に分かりやすく伝えられるように工夫したりして発表している。</p>	<p>●小グループで情報交換を行い，友達の気付きを参考にさせたり，遊び場へ行った時の写真や動植物の図鑑を活用させたりする。</p>
	主体	<p>季節による変化や季節の特徴について発見したことや感じたことを友達に伝えようとしている。</p>	<p>発見した秋や感じたことを，進んで絵や文章で表し，紹介しようとしたり，友達の発表に興味深く聞いたりしている。</p>	<p>●発表が苦手な子どもには，準備段階より話型を提示するなど，自信が持てるように声掛けを行い，意欲付けする。また，交流の形を工夫し，集中して聞けるようにする。</p>

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<p><b>見つけた あきであそんでみよう（5時間）</b></p> <p>木の実や落ち葉などの秋の自然物を使って遊ぶものや飾るもの、生活に役立つものなどを工夫して作ったり、自然物の形状から様々な発見をしたりして、秋を楽しむことができるようにする。</p>	知・技	みんなが楽しく遊べるように、遊び方やルールを工夫することや、分かりやすく伝えるために工夫が必要であることに気付いている。	作ったり遊んだり、観察したりしながら、自然物の様々な様子について気付いている。また、楽しく遊ぶためのルール作りや分かりやすく伝えるための掲示物や見本作りなどの工夫をし、相手を意識し発表することの大切さに気付いている。	●「どうしたらみんな楽しく遊べるかな？」と声掛けをしたり、ルールを工夫している友達の様子を見せたりする。
	思・判・表	比べたり、試したり、見立てたりしながら、秋の自然物を使って遊ぶものや生活に役立つものを工夫して作っている。	秋の自然物の形状や色合い、性質などを生かし、自分なりの工夫を加えて制作活動や発見を行っている。また、楽しく遊ぶために作ったルールや発見を相手に分かりやすく伝えるための発表準備を工夫している。	●発表や制作活動、作品の展示の仕方などが分からない子どもには、「みんなはどんなふうに乗っているかな？」と他の子どもの活動を参考にさせたり、「どうしたらみんなに分かりやすいかな？」と声掛けし、絵や図に表したり、見本を作ったりするなど発表準備の工夫の視点を提示する。
	主体	友達の良さを取り入れたり、自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しくしようとしている。	・伝える相手を意識し、より良い作品作りや発見のまとめを意欲的に行っている。 ・作品作りで困っている時は、友達と教え合いながら、より良い物を作ろうとしている。	●活動に繋がらない子どもには、友達の作品を見せたり参考資料などを提示したりする（学校図書館やインターネットの活用）。または、同じような活動を行う子ども同士の小グループで協力し活動をさせる。
<p><b>みんなであそぼう（4時間）</b></p> <p>作ったもので遊んだり、発見したことを紹介したり、生活に役立つものの作り方を紹介したりして、みんなで秋を楽しむことができるようにする。</p>	知・技	秋を楽しむことを通して、秋の自然物の不思議さや面白さに気付いている。また、単元の振り返りを通して、自分の頑張りや友達の頑なりに気付いている。	・友達の作品を見たり、一緒に遊んだりする中で、秋の自然の特徴と不思議さ、遊びを試行錯誤して作り出す面白さに気付いている。 ・学習全体を振り返り、自分の活動の頑張りだけでなく、友達の活動についても良かったところに気付いている。	●写真や活動記録（カードや学習プリント）、制作物などの具体物を見せたり、友達の発言を思い出したりして振り返らせる。
	思・判・表	伝えたいことを分かりやすく伝えたり、みんなが楽しく遊べるようにルールや約束を工夫したりしている。	・相手の反応や行動を見ながら、分かりやすく伝えたり、友達の発表について、自分の思いや感じたことを進んで伝えたりしている。 ・招待する人が楽しめるように考えながら、秋祭りの準備をしている。	●自分の思いや感じたことを伝えることが苦手な子どもには、友達と一緒に行動させたり、カードなどにかくことによって交流させたりする。 ●「幼稚園の子たちには、どうしたら分かりやすいかな？」など相手意識を持たせるように声掛けをする。
	主体	秋祭りを開くために必要な役割を話し合ったり、準備をしたりして、みんなと協力して秋を楽しもうとしている。	発表を聞いてもらうために積極的に友達に声掛けするなど、自分の役割を進んで行おうとするとともに、全体の流れをつかみながらみんなと協力して楽しんでいる。	●自分の役割を確認させ、準備と交流の仕方などの流れを板書に明示し、意識できるよう支援する。



## 単元名

## ひろがれ えがお

教科書 上巻 p.86～97

単元の配当時間 10 時間／活動時期 11～12 月

## 単元の目標

家庭生活について調べたり、自分の家庭生活を振り返ったりする活動を通して、家の人のことや、家の人のよさ、家族の一員として自分でできることを考え、家族の温かさや家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気をつけて生活を送ることができるようにする。

## 小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて変更して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<b>1日の生かつを ふりかえろう（3時間）</b> 自分の生活を見直し、規則正しく健康に気をつけて生活しようとしたり、家族の笑顔が増やせるように挑戦しようとしたりする意欲をもつことができるようにする。	知・技	規則正しく生活することの大切さに気付いている。	毎日決まった時刻に起床・就寝することや好き嫌がなく何でも食べることで、運動をすることなどが健康のために大切であることに気付いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●決まった時刻に起床・就寝できていない子どもたちに向けて、保護者への手紙や学級通信で規則正しい生活をさせるように呼び掛ける。</li> <li>●規則正しい生活を少しでもできた場合は子どもを褒め、励ます。</li> </ul>
	思・判・表	1日の生活を振り返り、絵や文章にして表現したり、友達に紹介したりしている。	「毎日、目覚まし時計が鳴って、自分で起きています。」など、積極的に1日の生活を振り返って発表したり、カードに表現したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日の生活を振り返ることが苦手な子どもには、昨日の学校生活の様子を思い出すよう助言する。</li> </ul>
	主体	自分の生活に関心を持ち、規則正しく生活することや、家族の笑顔を増やす挑戦に見通しをもって取り組もうとしている。	自分の生活を見直し、更に自分でできることをしようとしたり、家族に笑顔を増やすにはどうしたらよいかなど意欲的に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の生活を振り返るのが苦手な子どもには友達と相談させたり、教師が個別に助言したりする。</li> </ul>
<b>みんなにえがおをひろげよう（4時間）</b> 家族の笑顔を増やしたいという意欲を持ち、家族がしていることや、家族にしていることを振り返ったり、調べたりして、自分でできることや挑戦したいことを考えて、実行することができるようにする。	知・技	家庭生活において、自分でできることや家庭での自分の役割があることに気づき、家族の温かさ気付いている。	「家族の笑顔を見ると嬉しいな。」など、期待を持って仕事をしたり、触れ合うことを通して、喜びがあることが分かっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家族と自分との関わりがを見つけにくい子どもには、家の人もよく相談させる。また、教師から家庭に連絡を取る。</li> </ul>
	思・判・表	自分でできることや挑戦したいことを選んだり、決めたりして、計画を実行するとともに、家で挑戦したことを絵や文章で記録している。	自分がした仕事の内容だけでなく、「すごいね。」や「ありがとう。」と言ってもらえたなど、家族の様子を表現している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家族との触れ合いが少なく表現しにくい子どもに対しては、話題を選んで優しく声を掛け、友達と話すように促す。</li> </ul>
	主体	家族がしていることや、家族にしていることに関心を持ち、家族の笑顔が増えるように自分にできることをしようとしている。	「もっとみんなに喜んでもらいたいね。」など、積極的に仕事に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平日に家庭との触れ合いの経験が少ない子どもに対しては、休日の様子を思い出すように助言する。</li> </ul>

## 単元の評価規準

## ●知識・技能

規則正しく健康に気をつけて生活することの大切さや、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かるとともに、自分でできることや家庭での自分の役割に気付いている。

## ●思考・判断・表現

家庭生活における家の人のこと、家の人のよさ、自分でできることについて考えたり、家庭生活が楽しくなるように工夫したりして、それを素直に表現している。

## ●主体的に学習に取り組む態度

家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどに関心を持ち、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活したりしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<p><b>ひろがった えがおをつたえよう（3時間）</b></p> <p>家で挑戦したことを友達と紹介し合う中で、家庭での自分の役割を増やしたり、これからも継続しようとしたりするとともに、健康に気を付けて生活することができるようにする。</p>	知・技	自分が家族のために何かをしたり、自分でできることをしたりすることで、家族が喜んでくれることに気付くとともに、家庭生活における役割が増えた自分の成長や友達の良さに気付いている。	弟の世話をするなど、具体的にどのようなことをすれば、家族のみんなが笑顔になるかということが分かっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●どんな仕事でも、家族が笑顔になることを理解できるように個別に支援する。</li> <li>●友達の仕事を聞かせて参考にできるようにする。</li> <li>●自分の変わった点や家族が喜んだ様子を思い出すように助言する。</li> </ul>
	思・判・表	家で挑戦したことを絵や文章でかいたり、実演したりして、友達に分かりやすい伝え方の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・してみたい仕事を選んだり決めたりして、「みんなに喜んでもらいたいな。」など自分の気持ちも絵や文章にして表している。</li> <li>・家族との触れ合いを工夫し、みんなが笑顔になることを進んで表現しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手伝いの経験が少ない場合は、休日などの様子を思い出すように助言する。</li> <li>●家庭との連絡を細かく取り、励ましてもらうようにする。</li> <li>●家族との触れ合いに関心が少ない子どもには、友達の手紙などを参考にして意欲をもつようにする。</li> </ul>
	主体	家で挑戦したことや自分でできるようになったことを友達や先生に伝えようとするとともに、家庭での自分の役割を増やしたり、これからも継続しようとしたりしている。	学校のしたくが自分でできるようになるなど、自分のことは自分で行い、更に家族の笑顔が増えるようなことをたくさん見つけようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●友達の様子を見せて意欲をもたせるようにする。</li> <li>●どんな小さい仕事でも、その仕事を褒めてやり、継続的にできるようにする。</li> </ul>

## 単元名

## ふゆと なかよし

教科書 上巻 p.98～107

単元の配当時間 10 時間／活動時期 1～2 月

## 単元の目標

身近な自然を観察したり、冬の遊びを楽しんだりする活動を通して、冬の季節の特徴やそれらを利用した遊びの面白さに気付くとともに、それぞれの季節の良さや繋がりについて考え、自分の生活を楽しくすることができるようにする。

## 小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて変更して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<b>ふゆは どんな きせつかな？</b> <b>（1時間）</b> 普段の生活で気付いた冬について友達と伝え合う活動を通して、身近な冬に関心を持ち、冬探しの見通しをもつことができるようにする。	知・技	冬の季節の特徴に気付くとともに、冬の楽しみ方や生活の知恵について気付いている。	自然物（氷・雪・風・影）などや身の回りの変化から、それを使って遊ぶ方法や遊んだ時の体験などを友達に話し、冬の楽しみ方について気付いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●冬の特徴について友達の発表を聞きながら考え、どんな遊びができそうか一緒に考えるようにする。</li> <li>●冬の自然の面白さや不思議さが分かるような写真やスライドを用意しておく。</li> </ul>
	思・判・表	自分の生活経験に基づいて冬の季節について考え、今後の活動に見通しをもっている。	寒いからこそ、身体が温まるような食べ物や暖房器具を使っているなど、自分の生活と関連付けながら考え、今後の活動に結び付けるような発言をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●冬からイメージすることや物を考えたり友達の発表を聞いたりしながら、イメージを膨らませる。</li> <li>●わくわくボックス（教科書上巻p.100～111）を見ながら、どんなものがあるか考える。</li> </ul>
	主体	冬の季節に関心を持ち、生活の中で気付いた冬について、進んで話そうとしている。	わくわくボックス（教科書上巻p.100～111）を見ながら、「札幌の雪まつりの様子をテレビで見たことがあるよ。」というように、自分の体験や知っていることについて進んで伝えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●冬の自然物や冬特有の行事の写真やスライドを用意し、それを見ながら考えるようにする。</li> <li>●冬の遊びが載っている本やイラストなどを用意しておく。</li> </ul>
<b>ふゆの 校ていに出よう</b> <b>（2時間）</b> 諸感覚を使って、冬の校庭を探検する活動を通して、冬の特徴や季節の変化に気付くとともに、冬の遊びを楽しむことができるようにする。	知・技	冬の植物や生き物、校庭の変化の様子、風や影の変化に気付いている。	四季の変化とともに校庭にあるものにも変化が見られること（例えば、桜の木が春・夏・秋・冬とどんどん変わっていく様子など）について気付いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四季の変化が分かる写真を用意したり、自分のワークシートを見直したりして変化に気付けるようにする。</li> <li>●変化を感じやすいように定点の写真（木や花壇など）を用意し、並べて比べてみる。</li> </ul>
	思・判・表	四季の特徴を感じたり、確かめたりしながら、身近な自然を楽しんでいる。	冬の校庭の変化を体験的に感じながら、他の季節との違いについて考え、冬の季節の良さや生活の工夫などについて表現している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他の季節との違いに気付かせるように「前に観察した時とどんな所が変わったかな？」など、違いが意識できるような発問をする。</li> </ul>
	主体	四季の変化や季節の特徴に関心を持ち、思いや願いをもって身近な自然と関わる活動を楽しもうとしている。	冬の季節の特徴を生かして楽しく遊んだり、校庭の変化について進んで友達に伝えたりしようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教師も一緒に活動しながら、自然の不思議さを体感するようにする。</li> <li>●友達との関わりが苦手な子どもには、世話好きな子と一緒に活動させたり、グループで活動したりするようにする。</li> </ul>

## 単元の評価規準

## ●知識・技能

冬の自然の変化や不思議さ、面白さを感じるとともに、季節によって生活や遊びが変わることに気付いている。

## ●思考・判断・表現

冬の特徴や生活の変化について、自分なりに考えたり、振り返ったりして、それを素直に表現している。

## ●主体的に学習に取り組む態度

季節の変化に関心を持ち、それらを取り入れて遊びを工夫したり、自分の生活を楽しくしようとしたりしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<b>ふゆの あそびを くふうしよう（5時間）</b> 冬の特徴を生かした遊びを楽しんだり工夫したりして、冬の遊びの面白さや自然の不思議さに気付くことができるようにする。	知・技	季節に応じた遊び（風・影・氷・雪などを利用した遊び）があること、また、その楽しみ方に気付いている。	冬になると風が強くなることに気づき、凧あげを楽しんだり、水を入れておくと寒い朝に氷になることを知って、様々な氷作りを楽しんだりしている。	●冬の特性について普段の生活の中で気付けるような声掛け（例えば「今日は、風が強いね。」など）を行い、体験的に気付けるようにする。
	思・判・表	風・影・氷・雪など冬の自然を生かして、遊びを考えたり、工夫したりしている。	氷に触ると冷たいなど、視覚だけではなく触覚や聴覚なども用いながら、自然の素晴らしさを十分に味わい、それを表現している。	●冬の変化について実際に活動をしながらか、「もっと楽しく遊ぶ方法はあるかな？」などと投げかけていく。
	主体	冬の自然の変化や特徴に応じながら、冬の自然を利用した遊びや活動を友達と一緒に楽しもうとしている。	冬になるとつららや霜柱ができたり風が強い日が多くなったりする。そういった変化に気づき、それを遊びの中に取り入れている。	●冬の自然を使った遊びを教師も一緒に行いながらどんな変化が見られるのか聞くようにする。
<b>あそんだ ふゆを しょうかいしよう（2時間）</b> 遊んだ冬について、伝え方を工夫しながら冬の季節の特徴や良さについて相手に伝えることができるようにする。	知・技	冬の季節の特徴や良さに気付くとともに、四季の変化や季節の移り変わりと自分の生活との関わりに気付いている。	これまでの1年間の活動から季節の移り変わりに合わせて、自分たちの生活や遊びが変わっていることに気付いている。	●春、夏、秋の生活や遊びと冬の生活や遊びを比べるように声掛けをしていく。
	思・判・表	自分が一番伝えたいことは何かを考え、そのために有効な発表方法を選び、相手に分かりやすく伝えている。	遊んだ冬の中で一番伝えたいことを相手に分かりやすく伝えるにはどうしたら良いかを考え、伝え方を工夫している。	●発表方法が決まらずに悩んでいる子どもや発表の仕方が分からない子どもには、友達の様子を見せたり話型を用意してあげたりする。
	主体	遊んだ冬について自分なりの方法で進んで伝えようとするとともに、これからも四季の特徴を生かして自分の生活を楽しくしようとしている。	自分が伝えたいことをより良く相手に伝えるにはどうしたら良いかを考えながら内容や方法を選び、進んで準備や発表を行っている。	●単元全体の学習を振り返りながら、自分が友達に伝えたいことは何かを子どもの中で明確にしてから発表の準備を行うようにする。

## 単元名

## もうすぐ2年生

教科書 上巻 p.108～117

単元の配当時間 13時間／活動時期 2～3月

## 単元の目標

入学してからの1年間を振り返ったり、年長児との関わりを深めたりする活動を通して、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、進級する喜びやこれからの成長への願いをもって意欲的に生活することができるようにする。

## 小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて変更して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<b>1年かんをふりかえろう（2時間）</b> 入学してからの1年間の活動や行事などを友達とともに振り返り、楽しい思い出がたくさんできたことに気付くことができるようにする。	知・技	季節や時間の移り変わりの中で、たくさんの思い出ができたことに気付いている。	写真や記録カードを効果的に使って1年間の振り返りを行い、たくさんの思い出ができたことやお世話になった人がいることに気付いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●どんな人にも、どんな時にお世話になったかを思い出させるように、活動時の画像や映像を用意しておく。</li> <li>●どんな気付きがあったかを振り返れるように、教科書（p.109）にある「たのしかった！ ランキングベスト3」などの記述をもとに考えてみるように助言する。</li> </ul>
	思・判・表	写真や記録カードを手がかりに、楽しかった出来事やお世話になった人のことを思い出し、まとめたり、話し合ったりしている。	単なる出来事の紹介ではなく、その折々に感じたことや気付いたことを取り入れながら、分かりやすく発表したり、楽しみながら話したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グループごとの話し合いでは、教師がそばについてアドバイスしたり、記録カードに書かれたコメントにも触れたりしながら、特に思い出に残っていることから順に振り返れるようにヒントを出していく。</li> </ul>
	主体	自分自身の成長に関心を持ち、自分の成長を振り返ろうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかった出来事などを具体的に分かりやすく友達や学級に紹介しており、共感する姿も見られる。</li> <li>・自分の発表だけでなく、友達の発表にも耳を傾けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グループや学級の話し合いに取り込んでいけるように、同じような出来事はなかったか教科書（p.110～111）を使って考えてみるように声掛けをする。</li> </ul>
<b>できるようになったことをあつめよう（4時間）</b> 入学してからの記録や作品などから、自分も友達もできるようになったことが増え、互いに成長したことに気付くことができるようにする。	知・技	振り返りの過程で、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどに気付くとともに、友達の成長や良さに気付いている。	自分と周囲の人（友達・家族・地域の人）との関わりの中で、自分の成長を捉え、気付いたことをまとめている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他者からの評価の中から、できるようになったことに気付くように、家族からの手紙や友達の感想を取り入れるように助言する。</li> <li>●教科書にある「できるようになったこと」などを参考にする。</li> </ul>
	思・判・表	過去の自分と現在の自分を比較して考えたり、できるようになったことや得意なことをまとめたり、発表したりしている。	できるようになったことに実感を込め、意欲的に発表したり、友達の内容と比べたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●できるようになった現在の自分と比較できるように、できなかった入学当初の頃の様子について教師が話をする。</li> <li>●口頭の発表や文書によるまとめに限らず、発表の方法を多様化する。</li> </ul>
	主体	自分と家族や身近な人との関わりについて関心を持ち、自分の成長や友達の良さを見つけようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分ができるようになったことを冷静に振り返り、自信をもって活動している。</li> <li>・できることを更に増やしたいという意欲が感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●この1年間にできるようになったことがたくさんあることを前提として、どんな些細なことでも自信をもって発表できる雰囲気作りやルール作りを心がける。</li> </ul>

## 単元の評価規準

## ●知識・技能

多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、自分の良さや可能性に気付いている。

## ●思考・判断・表現

自分自身の成長を振り返り、これまでの生活や成長を支えてくれた人々、これからの成長について考え、それを素直に表現している。

## ●主体的に学習に取り組む態度

自分自身の成長に関心を持ち、これまでの生活や成長を支えてくれた人々へ感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		A基準（十分満足できると見取る児童の具体例）	B基準に達しない児童への支援
<b>あたらしい1年生を しょうたいしよう（4時間）</b> 友達と協力して新しい1年生（園児）に喜んでもらえるような準備や取り組みを進め、温かく優しい気持ちで1年生を迎えることができるようにする。	知・技	自分たちにも新しい1年生（園児）にしてあげられることがあることに気付いている。	自分たちがしてもらったことへの感謝と、してあげることへの喜びの両方に気付いている。	●個別に話を聞きながら、活動を通して気付いたことを意識化できるようにする。
	思・判・表	自分の経験やできるようになったことの自信から、新しい1年生が喜んでくれそうなことを考えている。	新しい1年生が喜んでくれそうなことを相手の立場になって考え、工夫した会になるように企画しようとしている。	●自分はどんなことが嬉しかったか、自分は何をしてあげたいかを考えさせながら、思いや願いを聞き出していく。 ●新しい1年生を迎える活動に具体的なイメージがもてるように、教科書のイラストや写真を使う。
	主体	1年生が喜んでくれる準備や工夫を意欲的に話したり、発表したりしている。	・リーダーシップを発揮し、意欲的に新しい1年生を迎える準備をしている。 ・計画したことを進んで実行しようと活動している。	●興味・関心が高まるように、自分たちが今の2年生に温かく迎えてもらったことを思い出させたり、新しい1年生がどんな気持ちで入学してくるかなどに触れたりする。
<b>しょうたいしたことを ふりかえろう（3時間）</b> 新しい1年生との交流を終えて、自分の役割が果たせた喜びや、新しい1年生に優しく接することができた達成感を感じるとともに、自分自身の成長に気付くことができるようにする。	知・技	自分自身のよさが分かり、これからも成長できることに気付いている。	1年生に優しく接することができた達成感を持ち、進級の喜びや抱負についての気付きがしっかりと自覚されている。	●見逃している気付きや感想が意識化できるように、カードなどへのコメントを利用する。
	思・判・表	2年生に進級する喜びや2年生になってしてみたいことを考えたり表現したりしている。	2年生に進級する喜びや2年生になってしてみたいことを進んで考え、工夫した方法で意欲的に表現している。	●文字や絵で自由にかかせたあと、その理由や具体的な内容を尋ねながら、考えをまとめることができるようにする。
	主体	新しい1年生に積極的に関わることができた達成感や、2年生に進級する喜びの気持ちを持ち、意欲的に生活しようとしている。	学年が1つ上がる喜び、新しい1年生を迎える喜びに満ちながら、意欲的に活動している。	●2年生になってからの活動の見通しがもてるようにするために、友達の考えた楽しみにしていることやしてみたいことを紹介する。